

人生の師

1. 教育を考える一言

「大切なのはどこへ行くかではなく、行った場所でなにをするか。」

2. 背景

この言葉は、私の中学校の担任の先生がおっしゃった一言です。

受験を控えて、志望校を決めるのに大いに迷っている私たち生徒に向けて、しきりにこの言葉を言い続けてくれました。その先生が言うには、「偏差値の高い高校を目指すのは受験生にとっては当たり前のことかもしれない。しかし、その高校に入って満足してしまい、たいしたこともせず無駄な高校3年間を過ごした生徒を何人も見てきた。大切なのはどの高校に行くかではなく、行った場所で何をするか、だ。」

皆さんのなかには志望校を決める際に偏差値やネームバリューなどばかりを気にして、その学校でなにができるのか、自分はそこでなにをしたいのかを考えないで選択した人は少なからずいるのではないのでしょうか。それでは実際学校に入学した後に、こんなはずではなかった、私のやりたいことはこんなことではないと後悔する可能性は高いです。

先生は我々がそのようなことにならぬようにこの言葉をかけてくれたのではないのでしょうか。私はこの先生に憧れを抱き、教師を目指すようになりました。数々の名言を残してきた先生ですが、この言葉は今でも鮮明に覚えており、私の人生を支えてくれています。

3. 考察

この言葉の意味を私は大きく二つの意味にとらえて理解をしました。

一つ目は、先生の言葉の通り、自分の思い通りの高校にいけてもそこで自分がやりたいことをできなければ意味がないという注意喚起の意味です。

二つ目は、一つ目とは逆の意味で、思い通りの高校にいけなくてもそこで自分がやりたいことを本気でできればそれでよい、自分がやりたいことができるところへ行けという激励の意味です。私は二つ目の意味としてこの言葉を深く胸に刻みました。

我々は皆、初めての受験であり、挫折を味わう人もいたでしょう。そんな我々にこの言葉は効果抜群だったのではないのでしょうか。

正直当時の授業の内容などはほとんど覚えていません。しかし、このような人生を左右するような大切な言葉というのは不思議と鮮明に覚えているものです。

教師とは、教科や部活を教えることは当たり前ですが、重要なのはむしろ人生の師となり、知識や経験を生徒に伝えていき、道しるべを示していくことなのではないのでしょうか。この言葉は、そんな教師の本質を考えさせられるきっかけとなった一言です。